

## 令和3年度秋期 プロジェクトマネージャ試験合格発表 分析コメントと今後の対策

(株) アイテック IT人材教育研究部 2021,12,17

10月10日(日)に行われた令和3年度秋期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系5試験の合格発表がありました。IPAから発表された得点分布など統計データの分析をもとにして、プロジェクトマネージャ試験の合格発表コメントをお知らせします。

### ■プロジェクトマネージャ試験 (PM)

[令和3年度秋期 プロジェクトマネージャ試験 統計情報]

応募者	10,184人
受験者	6,680人
合格者	959人
合格率	14.4%

令和3年度秋期のプロジェクトマネージャ試験の合格率は14.4%で、前回の15.1%から若干減少しましたが、平成21年から始まった現在の試験制度では、高い方に入る結果です。

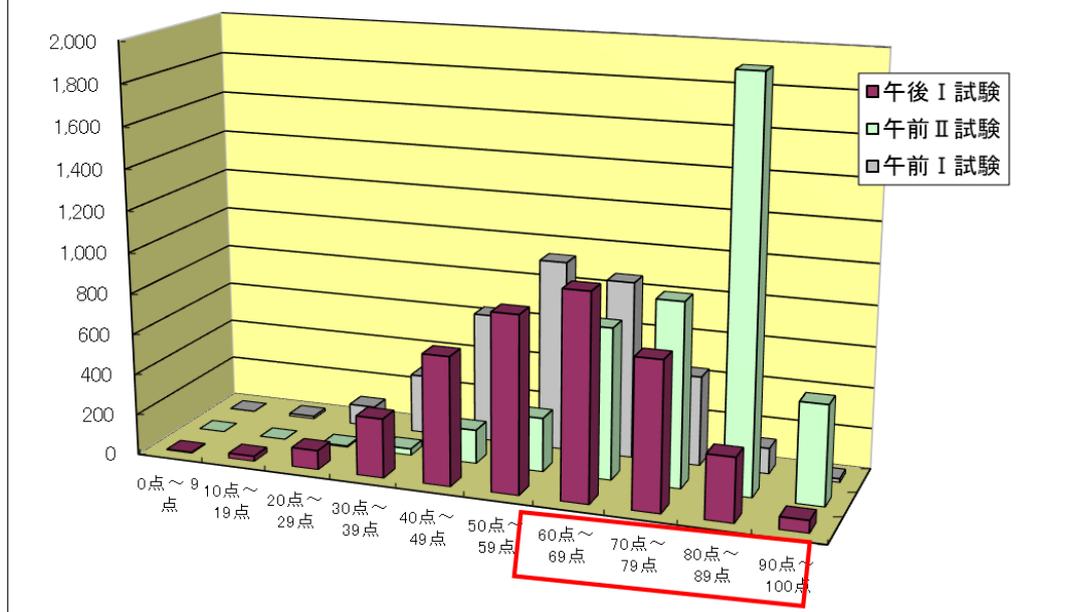
次に発表されたスコア分布の分析とグラフを示します。

[令和3年度秋期 プロジェクトマネージャ試験 スコア分布]

得点	午前Ⅰ試験	午前Ⅱ試験	午後Ⅰ試験	午後Ⅱ試験	合格者
0点～9点	1	0	4	D 169	
10点～19点	13	0	25		
20点～29点	100	6	94	C 417	
30点～39点	291	32	290		
40点～49点	636	166	627	B 522	
50点～59点	934	264	858		
60点～69点	866	737	997	A 959	
70点～79点	439	894	719		
80点～89点	126	1,955	309		
90点～100点	18	484	60		
計	3,424	4,538	3,983	2,067	959
対前試験比率		132.5%	87.8%	51.9%	46.4%
午前Ⅰ免除者概算	3,256	48.7%			

合格者数	959	採点者数の割合	合格者数との差
午前Ⅰ60点以上合計	1,449	42.3%	490
午前Ⅱ60点以上合計	4,070	89.7%	3,111
午後Ⅰ60点以上合計	2,085	52.3%	1,126
午後Ⅱ-A評価	959	46.4%	0

令和3年度 プロジェクトマネージャ試験 得点分布



午前 I 試験免除の人も増えてきましたが、得点分布を分析してみると、今回午前 I 試験の免除者は概算で 3,256 人（48.7%）おり、受験者の 5 割近くが午前 II からの受験となっています。この午前 I 試験で基準点 60 点以上取ることができた人は 1,449 人（受験者の 42.3%）でした。

午前 II 試験で基準点以上の人 4,070 人（受験者の 89.7%）で前回の 86.7% から微増です。

午後 I で基準点（60 点）以上取れた人は 52.3% で、前回の 56.3% から微減となりました。

午後 II で合格点の A 評価だった人は 46.4% で、前回試験の 42.2% から微増です。

## ■令和 3 年度秋期 プロジェクトマネージャ試験の出題内容について

### （午前 I 試験（高度試験の共通知識問題））

高度試験に共通して出される問題 30 問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験（AP）から選ばれていて、テクノロジー系 17 問（57%）、マネジメント系 5 問（17%）、ストラテジ系 8 問（26%）という出題比率です。

毎回、午前 I 試験を通過できる 60 点以上の得点者は 5～6 割で、出題範囲が広いため試験は意外と難しく感じる方が多いです。足元をすくわれないよう確実に対策を進める必要があります。

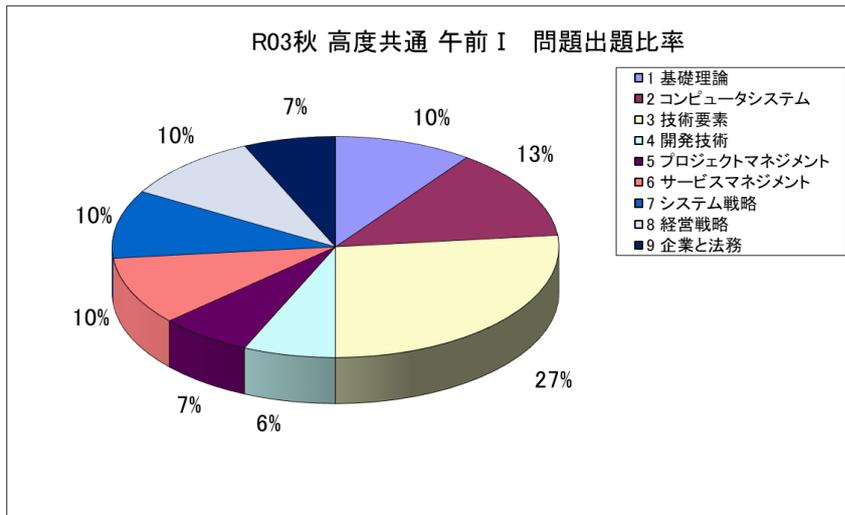
問題内容は、文章問題は 15 問（前回 17 問から減）、用語問題は 5 問（前回と同じ）、計算問題が 2 問（前回と同じ）、考察問題が 8 問（前回 6 問から増）でした。これらは毎回増減がありますが、考察問題がここ数回少しずつ増えている傾向があります。

- ・問題は出題範囲からまんべんなく出題される前提ですが、今回は、ヒューマンインタフェース、マルチメディアからの出題はありませんでした。
- ・重点的に出題されるセキュリティ分野の出題数は前回と同じ 4 問で、最も多い出題数です。
- ・過去問題はこれまで平均で 7 割ぐらいありましたが、今回は約 6 割で少し減りました。内容的には定番問題が多いのですが、考察問題が多かったことから、全体として前回よりもやや難しかったと思われます。
- ・新傾向問題は次の 7 問で前回の 2 問から大きく増えています。これまでの平均は 4 問程度なので、従来よりも多いといえます。

(新傾向問題)

- 問 1 接線を求めることによる非線形方程式の近似解法
- 問 4 16ビット整数の加算結果でオーバーフローしないもの
- 問 5 物理サーバの処理能力を調整するスケールインの説明
- 問 12 IoTセキュリティガイドラインにおける対策例
- 問 24 テレワーク導入後5年間の効果
- 問 27 リーンスタートアップの説明
- 問 30 特別条項を適用する36協定届の事例

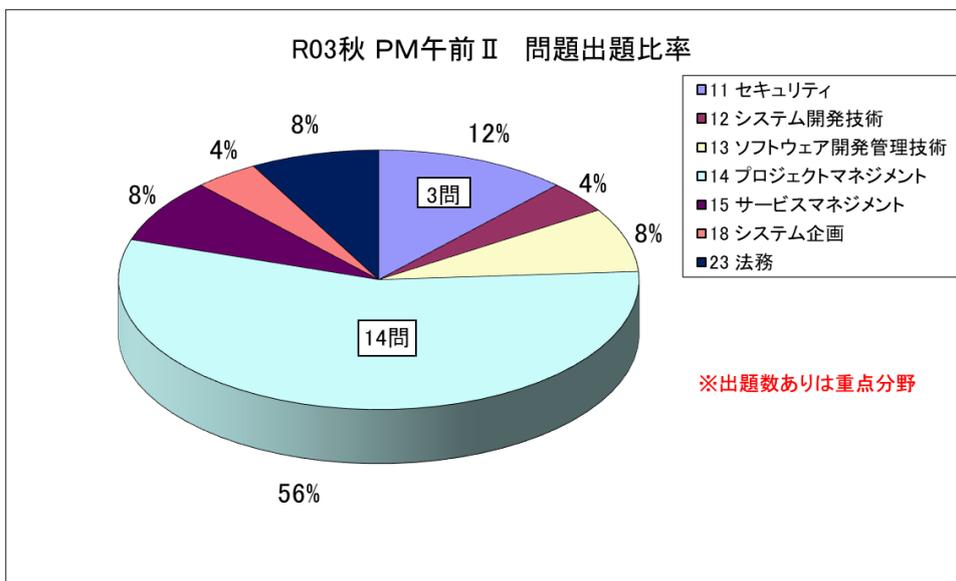
令和3年度秋期 高度試験共通 午前I問題出題比率



(午前II試験(専門知識問題))

午前II試験では、専門分野のプロジェクトマネジメント (PM) 分野から、前回と同じ14問出題されました。前回の試験からPMBOKの出題は第6版対応になりましたが、PMBOKと明記した問題は今回1問(前回2問)でした。また、JIS Q 21500:2018「プロジェクトマネジメントの手引」の出題は3問(前回と同じ)ありました。

令和3年度秋期 プロジェクトマネージャ試験 午前II問題出題比率



過去のプロジェクトマネージャ試験問題の出題は 14 問もあり（前回 6 問）、この中で平成 31 年度の問題が 9 問ありました。かなりの数が過去問題から出題されています。なお、応用情報（AP）の過去問が前回 5 問出題されていましたが、今回はありませんでした。

新傾向問題は次の 5 問がありました（前回と同じ）。

問 4 プレシデンスダイアグラムにおける最少の所要日数

問 9 ソフトウェアの規模の見積り方法

問 15 オブジェクト指向開発におけるロバストネス分析

問 20 システム要件の検討で用いる UX デザイン

問 22 技術者倫理におけるホイッスルブローイング

### 〔午後Ⅰ試験〕

午後Ⅰ問題の出題テーマと設問内容は、次のとおりです。問 1 が前回に続き、DX 関連の内容を含んだ問題でした。問題文の量、設問数・解答記述文字数などは従来と同じで、難易度も普通といえます。

問 1 新たな事業を実現するためのプロジェクト計画（生命保険会社） 普通

規制緩和、事業戦略、システム開発の現状、プロジェクト立上げ、プロジェクト計画、ステークホルダへのヒアリング、リスク対応計画と戦略選択方針、クラウドサービス、デジタル技術活用

問 2 業務管理システムの改善のための開発プロジェクト（健康食品通販会社） 普通

CS 向上、システムの改善、プロジェクトの目的、QCD の考え方、スコープ定義/QCD のマネジメントプロセス、考え方の違い整理、プロジェクトの制約、メンバ選任、リグレッションテスト

問 3 マルチベンダのシステム開発プロジェクト（金融機関） 普通

作業、役割分担、ベンダ契約形態、確認した問題（ステークホルダ、作業の管理、変更管理）、各問題対応、ステークホルダマネジメントの効果、マイルストーン設定、変更管理委員会の確認

### 〔午後Ⅱ試験〕

午後Ⅱの論文問題の出題分野とテーマは次のとおりです。今回の出題内容の特徴として、問 1 はチーム内の対立解消に関する内容で記述しにくい、問 2 は定番のスケジュール管理で比較的記述しやすい内容だったといえます。

問 1 システム開発プロジェクトにおけるプロジェクトチーム内の対立の解消について

プロジェクトチームのマネジメント、意見や認識の相違、対立の兆候、関係改善、原因分析、行動基本原則の改善と遵守の徹底、PJ の特徴、対立の解消策、原則の改善策、実施状況と評価

問 2 システム開発プロジェクトにおけるスケジュールの管理について

スケジュール作成と管理の実施、スケジュールベースラインに対する進捗実績、差異の監視、遅延の判断、対応策とばん回策の立案と実施、変更の承認、PJ の特徴、遅延と判断した状況と根拠、実施状況と評価

